



vol.1 中島忠光さん(43)



日本代表はJリーグ以前の赤いユニホームの頃から見ているという中島さん

30年、深まる愛情 群馬から“遠征”

群馬県から新幹線を使って通い、メインスタンドに座る。指定席は必ず11列目。「引き際が大事という人もいるけど、本人が決めること。私にとっては夢の存在です」

レプリカが増えたが、2年前、自宅に空き巣が入り、歴代のシャツをすべて盗まれた。思い出の品は消えたが、カズが現役でいる限り、青色の現在のシャツが宝物だ。



奥寺康彦が語る

サッカー選手の ReLife

Jリーグは人生のゴールではない

サッカー選手はみな、一生プロとして働けるわけではない。横浜F.C.の奥寺康彦会長は40年以上前に日本初のプロ選手としてドイツに渡り、引退後はJクラブで監督、強化担当などを務めてきた。サッカー選手の第二の人生について聞いた。



Jリーグの新人研修会ではプロ選手としての心構えが説かれる

注いでいる。Jリーグは人生のゴールではない。(ライター・杉園昌之)



1 中山克広 (MF)



新人だった昨シーズンはJ1昇格に貢献。今年も右サイドの核として期待される

代表ユニ姿の子たち 地元で見たい

横浜の生まれ育ちだが、いまも実家があるのは市営地下鉄の川和町駅近く。「横浜出身というと都会っ子と思われるけど、周りは田んぼばかりでなにもない。みなどみらいや桜木町には、いまもあこがれの気持ちがある」と笑う。人懐っこい顔で自虐気味に話すのは、地元への強い愛着があるからだ。

自転車とJR、相鉄線で現在の練習場に通った。ユースに上がれず、高校、大学を経て、プロ選手として戻った。最近SNS上で、「昔の中山くん見つけた」と自分の写真を目にするのも多い。「昔から見てくれている方がいて、ありがたいです」

Profile table for Nakayama Katsuhiko including birth date, birthplace, and favorite spots.

り。優雅な気持ちになるというか、リフレッシュできる」



国際試合の主舞台 奥寺の凱旋試合も

現在のニッパツ三ツ沢球技場は1955年に神奈川で行われた国体のラグビー会場として誕生。その後64年東京五輪のサッカー会場として改修され、国際試合にも使用できるスタジアムになった。

備された大宮公園サッカー場(現NACK5スタジアム大宮)とともに、サッカー専用競技場の先駆けとして、さまざまな国際試合の舞台となってきた。



1982年ジャパンカップで凱旋した奥寺(当時西独プレーメン) ©今井恭司 (STUDIO AUPA)